

今年度も引き続き、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は例年以上に数多くの生徒の皆さんが校長室に足を運んでくれ、大会報告や各種イベント案内など、様々なお話を聞かせてくれました。教育活動はもちろん、そうした生徒の皆さんとの談話等も交えながら綴ってまいりますので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.64

R6. 8.20～22 「ラグビーシーズン、始まる」

ラグビーフットボール支部予選会を、20日から3日間の日程で東光スポーツ運動公園を会場に開催しました。今年度は本校が当番校を務めました。旭川ラグビーフットボール協会関係各位、高体連専門委員並びに競技役員、各校顧問の先生方のご尽力のお蔭で無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。

試合は各校とも期待どおりの熱戦を繰り広げ、好プレーも随所に見られるなど、ラグーマン一人一人が日頃の練習の成果を存分に発揮してくれました。

本校ラグビー部は惜しくも決勝で破れましたが、最後まで諦めることなく走りとした姿は立派でした。

来月は準優勝校として全道大会で花園を目指すこととなりますが、今大会の成果と課題をしっかりと整理し、さらにプレーに磨きをかけ全力を出し切ってきて欲しいと思います。



One for all, All for one. No.65

R6. 8.21 「交通安全教室」

自転車による登下校時の安全を再確認するため「交通安全教室」を実施しました。旭川市防犯課、旭川東警察署、北海道クミアイ自動車から講師の方々をお招きし、様々な角度から交通事故の恐怖と身を守る意識の大切さを学びました。



スタントではありますが、交通事故による激しい衝突シーンがプロジェクターに映し出されたびに、衝撃が身に迫ってきます。時と場合によっては加害者にも被害者にもなり得ること、一度事故に遭遇してしまうと取り返しのつかない人生になり得ること、家族すべてをも巻き込んでしまうことなど、改めて交通事故の怖さを実感しました。

また、免許を考えている3年生は、内輪差などの大型車特有の構造やバックミラーの死角、巻き込み事故の要因など、運転者の立場からの説明にも真剣に耳を傾けていました。

交通安全は自分が気をつけていても起こり得るものです。しかし、その確率を少しでも減らすために常に交通ルールを順守する意識をもたなければなりません。

最後に代表生徒が本校の「交通安全宣言」を読み上げ、交通事故防止を誓い合いました。

One for all, All for one. No.66

R6. 8.21 「旭川の魅力」

学年単位で行っている「総合的な探究の時間」の学習風景を一部覗いてきました。体育館で行っていたのは、2年生キャリアデザインの生徒による「旭川の魅力」探究です。

一人一人が旭川の魅力を考え、人に伝えるための表現やデザインをリーフレットにどう生かしていくかという学習です。さらに、完成したものを互いに評価し合い、どのような点が良かったかについてグループで協議し発表します。

思考力、判断力、表現力の育成に加え、協働意識を生み出すことが狙いとなっています。

探究学習には、このように生徒が主体的に取り組み、新しいものを創造していくプログラムが数多く用意されています。

積極的に話し合う生徒の姿はとても生き生きとしていました。また、作成されたリーフレットからは「旭川の魅力」が次から次に伝わってきます。



One for all, All for one. No.67

R6. 8.28 「新チームがスタート」

今年度大躍進し、創部以来わずか数年で全国（福岡開催）出場を果たした男子バスケットボール部が、新チームとしてスタートを切りました。

新たにチームキャプテンとして部員18名をまとめる2年生 大塚 瑛太君と、ゲームメイクの要としてゲームキャプテンを務める2年生 引本 漣君のお二人に話を伺いました。



大塚君は「インターハイで実感したのは、どのチームも殆どミスがなく、スタート段階から選手同士のコミュニケーションが密に行われていたことです。個人のスキルが高いことは予想していましたが、それを有効的に発揮できる組織力に圧倒されました」と、全国レベルのチーム力を分析します。

引本君も「フィジカルはもちろんですが、一つ一つのプレーの精度、コート内での正確な意思疎通など見習うべきことが沢山ありました」と、やはり同様の感想を持ったようです。

全国大会で、これまで経験したことのない実践を肌で感じ取れたことは大きな収穫です。「練習では、どこにも負けないスピードと正確なシュート力を身につけ、チーム全体が常に組織的に動けるよう努めます」と、二人は声を揃えます。

コート外での言動にも責任を持ち、より高い人間性を身に付けることを主眼としている男子バスケットボール部の今後の活躍から目が離せません。

R6. 8.28 「インターハイ（全国大会）」

高体連全道大会66kg級で個人優勝し、大分でのインターハイ（全国大会）に出場してきた3年生 高谷 駿君が、結果報告に校長室を訪れてくれました。

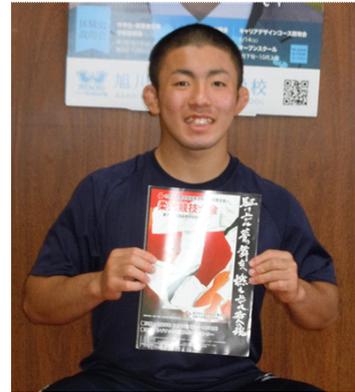
一度73kg級に階級を上げて活躍していましたが、今大会では持ち味のスピードを生かすため元の66kg級に戻しての挑戦となりました。

「食事や運動量などを工夫し、スピードを生かせる階級で臨みました。その分パワーは落ちましたが、常に先手を取り休みなく攻撃できるスタイルを取り戻すことができました」と、全道大会での快進撃を振り返ります。

全国大会では、自分の組手や間合いを修正して臨んだ結果、目標とする初戦を見事突破。続く2回戦ではあと一步の所で惜敗し悔しさも経験しましたが、その分、リベンジに向けさらに上を目指す強い意気込みを得たとのこと。

「小さな体でも大きな相手を倒せる柔道は、自分にとって魅力溢れるスポーツです。チャンスがあれば強豪校に進学し、さらに技術を磨いていきたいです」と、今後の抱負を語ってくれました。

礼儀正しく清々しい受け答えや人間性に、武道家としての品位と誇りと感じました。



R6. 8.29 「女性主将の誕生！」

野球部創部以来、初の女性主将となった2年生の小玉 心さん。昨春、マネージャーとして野球部に入部しましたが、業務の傍ら、ノックをはじめ、練習内容や個々の技術向上にも助言できる程の野球通です。

小玉さんが野球をはじめたのは小学2年生の時、お父さんの影響もあり、中学まで男子とともに現役の野球選手として活躍していました。



「監督から『主将』と言われた時は少し驚きましたが、最後の一球まで何が起こるかわからない野球の醍醐味に魅了された一人として、今は選手とともに頂点を目指し頑張りたい気持ちでいっぱいです」と、主将としての強い決意を覗かせます。

現在のチームは、「部員数が多い分、互いに切磋琢磨しレギュラー争いを続けています。一瞬たりとも気の抜けない練習の中でこそ高度な技術が身についていくので、今のチーム状況は私にとって理想とも言えます」と、大きな手ごたえを感じているようです。

結びに、「個々の技術に加え、皆が同じ目標にベクトルを向け努力することが大切だと思います。そして最後に喜びを分かち合える、そんなチーム作りに少しでも貢献していきたいです」と抱負を語ってくれました。

強固な意志と信念に裏付けされた求心力、部員一人一人と真摯に向き合い配慮できる包

容力、課題発見と解決方策が示唆できる分析力と、リーダーに必要な資質を十分に備えている小玉さんの今後の活躍が本当に楽しみです。